

令和3年度伊勢原市総合教育会議議事録

令和3年11月17日（水）午後2時から伊勢原市総合教育会議を伊勢原市役所議会全員協議会室に招集した。

[開催日時] 令和3年11月17日（水）

午後2時から午後3時30分まで

[開催場所] 伊勢原市役所 議会全員協議会室

[出席者] 市長 高山 松太郎
教育長 山口 賢人
教育長職務代理者 重田 恵美子
委員 菅原 順子
委員 渡辺 正美
委員 福田 雅宏

[事務局] 谷亀教育部長、濱田学校教育担当部長、
立花参事（兼）歴史文化担当課長、熊澤教育総務課長、
守屋参事（兼）学校教育課長、今井教育指導課長、
山内参事（兼）社会教育課長、杉山図書館・子ども科学館館長、
須永教育センター所長、吉田教育総務課主幹（兼）総務係長

[公開の可否] 公開

[傍聴者] 16人

[経過] 次のとおり

午後 2 時 0 0 分 開会

○教育部長【谷亀博久】 定刻になりましたので、ただいまから令和 3 年度伊勢原市総合教育会議を開催いたします。次第に従いまして進めてまいります。

初めに、高山市長から御挨拶をお願いいたします。

○市長【高山松太郎】 皆さん、こんにちは。教育委員の皆様におかれましては、日頃から本市の教育行政に多大なる御尽力をいただいております。心から御礼を申し上げます。

さて、令和 3 年度は、新型コロナウイルスの感染拡大が長期化いたしまして、1 年延期されました東京オリンピック・パラリンピックは、ほとんどの競技が無観客で実施されるなど、日常生活や経済活動、さらには、スポーツ、文化活動等に深刻な影響を及ぼしてまいりました。大山でも聖火リレーが行われる予定でございましたけれども、それも中止になったわけでございます。

教育委員会におかれましては、昨年度から引き続き、学校教育活動の継続はもとより、卒業式、入学式、さらには運動会や修学旅行など、様々な行事におきまして難しい判断や対応を迫られ、御苦労が多かったと思っております。今日まで校内におきましてはクラスターが発生することもなく、児童生徒や保護者に寄り添いながら適切に対応していただいていることに改めて感謝を申し上げます。

こうした中、社会全体を見渡しますと、コロナ禍がもたらす影響により、新たな生活様式や働き方、そして、学びへの変化が求められていると考えております。

本市におきましては、昨年度、教育 I C T 環境の充実を図るため、国の G I G A スクール構想を受けまして、児童生徒に 1 人 1 台のタブレット端末を、当初の計画を前倒しいたしまして、導入したところでございます。現在、各校におきまして、1 人 1 台のタブレット端末の活用を進め、児童生徒の学力向上に資する取組を行っているところでございますが、新型コロナウイルス感染症が完全に収束していない現段階におきましては、長期の臨時休業等の様々な事態が生じた場合でありましても、児童生徒の学びを保障するため、I C T の効果的な活用をさらに図っていく必要があると考えております。

また、中学生の健やかな成長と食育の推進等を目的に、昨年から中沢中学校で試行してまいりました学校給食を、本年 4 月から市内の全ての中学校で実施するなど、教育環境の向上に努めてまいりました。

その一方で、少子・高齢化の進展とともに、人口減少社会が到来する中で、昭和 5 0 年代に多くが建設されました本市の学校施設や公民館等の社会教育施設が、今後、一斉に改修時期を迎えることになるなど、教育施策を取り巻く諸課題がこれまで以上に顕在化することが懸念されております。

こうした中、本市におきましては、現在、時代の変化や市民ニーズを踏まえつつ、人口減少に立ち向かい、持続的に発展するためのまちづくりの指針となります第 6 次総合計画の策定に着手いたしております。今後も教育委員会と教育行政に関わる認識を共有いたしまして、連携・協力しながら、施策の推進を図ってまいりたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

さて、本日は総合教育会議ということでございます。教育委員の皆様には、既に御案内のとおりでございますが、この会議は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律の規定に基づきまして、地方公共団体の長と教育委員会で構成し、首長が招集して開催する会議でございます。本日の協議事項は、「ICTの活用による教育施策・事業の新たな可能性」についてでございます。本日の会議が有意義なものになることをお願い申し上げ、私からの挨拶とさせていただきます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

○教育部長【谷亀博久】 ありがとうございます。

続きまして、山口教育長、よろしくお願ひいたします。

○教育長【山口賢人】 教育委員会を代表いたしまして、御挨拶を申し上げますさせていただきます。

まず、市長には大変厳しい財政状況が続いている中、学校教育をはじめ、文化財の保護・活用や社会教育の充実・振興、そういった教育行政全般にわたります多大な御配慮をいただいておりますことに対しまして、心より御礼を申し上げたいと思います。誠にありがとうございます。

先ほど市長の御挨拶の中にもありましたが、おかげさまでこの4月から、全児童生徒に対して1人1台ずつのタブレットを配置することができました。また、中学校全てを対象にした伊勢原独自の方式によります中学校給食もスタートすることができました。

伊勢原の独特な特色ある教育活動ということ言えば、小学校における少人数学級編制や教科担当制による指導体制の整備でございますが、これらは伊勢原市が国の施策に先んじて、県下で最も早い時期から導入している他市にも誇れる事業となっております。また、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーの配置を進めることで、教育相談の充実や、学校教育と福祉の接続、そういうものが進んでおりまして、支援教育の充実が図られているところでございます。

子どもを学校に通わせる保護者にとって、もちろん経済的な部分というのもありますけれども、やはり自分の子どもを安心して学校に通わすことができるかどうかという点は大きな関心事となっております。その意味でも、少人数学級や教科担当制などの指導体制整備に取り組んでいること、また、支援教育が進んでいることは、伊勢原で子育てをしている保護者にとって心強いものになっていると思っております。市長には、これらの事業の継続や推進に御理解と御支援をいただいていることに改めて感謝を申し上げたいと思います。

また、昨年から続く新型コロナウイルス感染症の対応についても、緊急対応として予算をつけていただきまして、学校の実情に応じた取組ということで、学校が最も必要としているところにこの予算を使わせていただいております。このことは学校職員のみならず、保護者からも大変感謝されているところです。そのおかげだと思っておりますが、結果として、これまで学校内感染やクラスターの発生などが起こっていない、そういう状況になっています。

また、近年の夏場の猛暑から子どもを守るために設置をしていただきましたエアコンにつきましても、このコロナ禍にあつて、改めてそのありがたさを実感し

ているところでございます。

また、社会教育施設に対する消毒液の配布とか、あるいは図書館における書籍の消毒器の設置なども進めていただきましたし、また、ワクチン接種のことで言えば、教職員への優先的な接種、あるいは12歳以上の子ども達への接種も進めていただいております。直接、あるいは側面から支えていただいております、大変ありがたいことと感謝申し上げます。

今回の総合教育会議のテーマとして設定していただきました「ICTの活用による教育施策・事業の新たな可能性」につきましては、教育委員会としましても、学校における今後の授業の在り方に関わる大きなテーマでありますし、社会教育や生涯学習の可能性を広げる上でも重要な課題と認識しております。本日はこのような貴重な機会を与えていただきましたので、様々な視点から意見を交わせたらありがたいなと思っております。どうぞよろしく願いいたします。

○教育部長【谷亀博久】 ありがとうございます。

----- ○ -----

協議事項「ICTの活用による教育施策・事業の新たな可能性」

(1) 学校教育分野について

○教育部長【谷亀博久】 それでは、次第3の協議事項に移りたいと思います。進行につきましては、伊勢原市総合教育会議運営要綱第4条の規定に基づき、高山市長にお願いしたいと思います。

高山市長、よろしく願いいたします。

○市長【高山松太郎】 それでは、よろしく願いいたします。

まず協議事項の「ICTの活用による教育施策・事業の新たな可能性」の(1)学校教育分野についてでございます。

本市におきましては、冒頭申し上げましたとおり、学校教育におきますICT環境の充実を図るために、国のGIGAスクール構想に基づきまして、市内全小中学校に高速大容量の校内無線LAN環境を整備いたし、児童生徒に1人1台のタブレット端末を当初の計画を前倒しして、全児童生徒の人数分の整備を行いました。各校においては1人1台のタブレット端末の活用を進め、児童生徒の学力向上に向けた取組を行っているものと認識をいたしております。

現在、新型コロナウイルス感染症の状況といたしましては落ち着きを見せておりますが、完全に収束をしていない状況の中、今後、長期の臨時休業等の様々な事態も想定されます。そのような事態が生じた場合にありましても、児童生徒の学びを保障するため、ICTの効果的な活用をさらに図っていくことが必要だと考えております。

そこで、まずは、学校教育分野におきますICTの活用について、新たな可能性や、課題点など、教育委員の皆様方から御意見をいただきたく存じます。

それでは、事務局から本市の状況につきまして説明をお願いします。

○学校教育担当部長【濱田保】 それでは、学校教育分野におけるICTの活用状況等について御説明させていただきます。

資料1を御覧いただきたいと思います。

本市では、資料1の項番1に記載したGIGAスクール構想に基づき、多様な子ども達一人一人に個別・最適化され、創造性を育むための教育ICT環境の実現を目指し、項番2に示したとおり、高速大容量の通信ネットワークと児童生徒1人1台の学習用タブレット端末（クロームブック）等を一体的に整備していただきました。

活用に向けた取組の状況でございますが、項番3でございます。情報教育担当者への研修会をはじめ、学校ごとに講師が来校して導入研修を実施したりするなど、計画的に取組を進めているところでございます。

また、今年度からICT支援員を1名配置し、各校へ派遣をして、教員のICTを活用した授業準備の支援や実際の授業での補助、放課後における校内研修等、各校の状況に応じて柔軟に対応しているところでございます。

さらに、各校の取組につきましては、項番4のとおり、担当者会や情報教育研究会、各教科の研究会等の機会を通じて情報交換を行っているほか、教職員用ネットワークの掲示板等を利用しながら、活用実践例等について情報共有を図っているところでございます。

続きまして、現時点の学校における実践例について御紹介いたします。項番5に記載しております。

まず教科学習での実践例としまして、ドリルソフトやインターネットでの調べ学習をはじめとして、考え方を端末の画面上で共有して、話合いや考えを深めるきっかけとしたり、外国語科でのスピーチの録画や体育科での鉄棒や跳び箱等の実技の撮影を通して、個々に学習の成果を確認したりするなど、活用を図っているところでございます。

また、教科外での実践例としましては、現在、様々な理由で教室で学習ができていない児童生徒に対する支援の一つとして、本人や保護者と共通理解を図った上で、1人1台端末を活用している事例もございます。その活用事例といたしましては、学級活動に参加をして、短い時間ながらも顔を合わせて交流を図ったことや、外国語等の授業をオンラインで配信し視聴したこと、アプリケーションソフトを使用して、課題の提示・回収を行った等の取組を行っております。

その他、長期の臨時休業等の様々な事態に備え、端末の家庭での活用を想定しながら取組を進めているところでございます。現時点の状況といたしましては、各家庭でのWi-Fi環境調査及び接続テストを実施しており、概ね学校と家庭において、1人1台端末を活用してオンライン接続ができる状況にあります。

最後に、今後の活用に向けた課題等でございます。項番6でございます。

現在も各校の実情に応じて取組を進めておりますが、学習における1人1台端末のさらなる活用のため、研修体制の充実やICT支援員等の支援体制の充実を図ってまいります。そして、今後活用が進むことを見据え、児童生徒の状況をしっかりと把握した上で、実情に応じた、より実践的な情報モラル教育を充実して

いくことが必要であると考えております。それと併せまして、技術的な面と教職員の意識の面の両面から、情報セキュリティー体制のさらなる構築を図っていくことが重要であると考えます。また、活用が進みますと、端末や周辺機器の修繕の割合も増えていくことが考えられることから、数年後になりますが、端末等の更新についての対応の仕方も、計画的に検討を重ねていく必要がございます。

こうした課題につきましても学校と密に情報共有を図りながら、取組を進めていきたいと考えております。

説明は以上でございますが、この後、実際の授業の様子やクロームブックの活用例を御覧いただきたいと思っております。よろしくお願ひいたします。

○教育指導課長【今井仁吾】 改めまして、教育指導課の今井と申します。どうぞよろしくお願ひいたします。

私のほうからは、せっかくの機会でございますので、資料1に載っている写真ではございますが、補足の説明ということで説明をさせていただきたいと思っております。どうぞよろしくお願ひいたします。

(スクリーンに写真や映像を投写しながら説明)

まず、こちらが校内ネットワークのWi-Fiのルーターで、各教室また体育館等にも配信しております。基本的に学習で使う場所では端末が使える状況になっております。

これが充電保管庫の写真になります。各教室に設置をしているところです。

そして、こちらが、先ほど話がありましたが、校内研修会、先生方の実際の研修会を行っている様子です。教室の机に座しているところでございますが、児童と同じような形で1人1台端末を使いながら、実際に実機を触りながら、事前に研修を行っているということでございます。

これは低学年の児童の様子です。生活科で実際に端末を持って写真を撮って、身近な動物や虫などの様子について、確認しながらスケッチを取るといった活動を行っております。例えば、昆虫ですと、どうしても動いてしまうものなので、端末で写真を撮った上で、改めてよくその特徴を確認しながら、記録を取っているといったところです。

こちらのほうは自分たちで撮り合った写真を基に、それを見せ合いながら、交流を図っているといった様子です。

こちらは高学年の理科の授業になりますが、こちらのほうは、写真の右側、教室に大きな画面のテレビがございまして、教師用の端末に児童から画像やデータが送られてきますので、それを一斉に映し出したり、参考になるところを見せたりということを行っている様子でございます。

もう1点は、これは実際に入っているソフトのものです。先ほどドリルソフトという話がありましたが、これが実際の画面になります。こちらは、小学校2年生になります。例えば、漢字のドリルが入っていますが、新出漢字のところですね。右側の下のほうですが、初めて習う漢字はこういった形で、書き順が出るよ

うになっています。答え合わせまで進みますと、丸がついたりですとか、先ほど自分で学習した漢字をまた実際のドリルなどで送り仮名をつけたような状況で練習をしたりとかすることもできます。

そして、今度は算数になりますけど、単元に沿った形で、こういったものが入っております。例えば本当に一部ですけれど、これは2桁の計算ということで、答えをここに打ち込んでいきますが、これも使い方の一つとしては、実際ここで書き込むことができますので、実際の筆算をすることもできます。ただ、実際、学校では筆算は、升目のあるノートで練習することを指導しているところですので、あまりこの使い方はされてないということですが、こういったこともできるということです。場合によってヒントなども出てきますので、それも見ながら自分の状況に合った形で活用ができるということです。

本当に一部の機能ですが、このような形でタブレット端末も活用しているということです。様々な機能が入っておりますが、その都度学校のほうで研修を進めながら、行っているところです。

説明は以上になりますが、こちらが、実際に児童生徒が使用しているタブレットで、これぐらいの大きさになっています。主にこういったキーボードといっしょに使うものですが、場合によって使い方によっては、カバーが外せるようになっておりますので、持ち運びもしやすいようになっています。説明は以上です。

○市長【高山松太郎】 　　ただいまICTの活用について説明と授業の様子を見ることができたわけでございます。

ここで、本件につきまして、教育委員の皆様方から御意見をいただきたいと思っております。重田委員からお願いしたいと思います。

○教育委員【重田恵美子】 　　学校現場において児童生徒が1人1台のICT端末機がこのように提供され、ICT環境整備が自宅の学習でも操作可能になった今、それを何のために、どのように活用していくかを考えたいと思っております。コロナ禍で学校が休校になり、授業ができないという状況が実際長く続きました。このようなことになり、つくづく学校教育においてGIGAスクール構想の大切さを感じました。まだその操作は個人差がありますが、その個人差を克服できれば今後やむなく休校になっても自宅に居ながら授業を受けることが可能になり、体調が悪くても、また不登校でも学校の授業を見ることも聞くこともできるという、確かにICTの未来性、必然性を感じます。また、そのステージをいただきましたことに大変感謝しております。

ICTを教科書と併用することでさらに知識を深めていくことと思っております。同時代における世界と日本の歴史、文化、芸術などの比較を写真などインターネット活用で資料収集、調査研究し、学習や研究発表したり、教員が児童生徒に説明するために画面を拡大提示したり、英語学習などでは正しい発音のために音声を取り入れたり、またドリルの活用など、そして個々で入力した意見をグループで整理し、議論したり、グループとしての発表といった共同作業にも利用は可能です。特別支援教育を必要とする児童生徒の学習上の困難や障害の種別ごと、そして習熟程度に合わせた学習や、宿題や家庭学習にも利用可能です。児童生徒の出

欠、成績管理などの教員の校務支援としても活用することができるので、教員の働き方改革にもつながると思います。そして、各教科を多角的に利用することで、広く深く物事を知ることができ、一層興味が湧いて楽しく学習ができるようになると思います。

また、実際に同じ場所にいない他校、あるいは地方、ひいては海外の同世代の学校の子ども達がICTを活用し、顔を見ながら意見交換をできるようになればとても素晴らしいことだと思います。ほかの地域、世界の人たちの考え方をすることで、ほかを理解するとともに、己を知り、確固たる考えを築くことができるようになると思います。

ICT活用、教材活用、教育アドバイザーや外部人材の活用でICT活用に関する指導者の養成研修の充実でICTの技術を理解し、深める教育のためにその潜在技術で子どもの力を最大限に引き出すために、教員の役割や児童生徒の学習を支援強化していくために、AIは代替ではない、人工知能のすさまじい進化や発展の中、児童生徒が社会に取り残されない、そして主体的に社会と関わることはとても大事なことだと思います。それと同時に、よりよい社会と幸福な人生の作り手となるような力を育むために、活用し、創造性を育む教育としての一端になることが大事だと思います。

これらのICT活用によるメリットを最大限に活用しながら、どんなに「ICTによるプログラミング教育の必修化、そういうものの充実に力を入れても、いま一度大きなものを忘れてはいけない、大きなものを失わない教育を改めて考える必要性もあると思います。社会に、そして世界に取り残されないようにICT教育の必要性を感じ、理解するとともに、人と人とのコミュニケーションを重んじ、人を思いやる気持ちを育む教育を抜きにしてはあり得ないと思います。機械と四六時中向き合うことは心を病んでしまうかもしれません。人間は人間と向き合うことの大切さを忘れてはいけません。そのバランスを今後のテーマとして考える必要性もあるのだと思います。

以上です。

○市長【高山松太郎】 ありがとうございます。

続いて、菅原委員、お願いします。

○教育委員【菅原順子】 2年前に出された文部科学大臣のGIGAスクール構想についてのメッセージは、GIGAスクール構想の3つの理念が端的に凝縮されていると思います。1つ目は、これまでの我が国の教育実践の蓄積の上に最先端のICT教育を取り入れ、これまでの実践とICTとのベストミックスを図っていくということ。2つ目は、創造性を育む学びに寄与するものであること。3つ目は、個別・最適化された学びを進めることによって特別な支援が必要な子ども達の可能性も大きく広がること。この3点です。

1点目についてですが、これまでの先生方の実践がモデルとなることが大前提で、先生主導によるコンテンツの蓄積、共有が重要だと思います。例えば低学年の英語の授業で大変分かりやすく楽しいアルファベットの学習サイトが使われていますが、逆に言葉の意味調べを子ども任せにすることによって、検索して一

番最初に出てきた情報を子どもが鵜呑みにしてしまうという場面も見ました。子どもにとってのタブレットは、これまでは主にゲームやSNS用なので、学ぶためのツールとしてのタブレットの利用方法やルール、情報の取捨選択については学校で低学年から系統的に教えていく必要があると思います。

2点目の創造性を育む学びに関してですが、いつでも、どこでも、何度でも、お金がなくても世界中の知識に触れることができ、誰とでもつながることができ、発信できるのがICTです。インプットしたことをまとめ、自分の言葉で発信し、他者からのフィードバックを受けて新たな深い学びへとつなげることができます。姉妹都市の子どもや不登校、病気療養中の子どもとも通信できるなど、可能性は無限大であると思います。また、教科書のQRコードを読み取れば英語のモデル音声を聞くことができますし、社会や理科の資料を見ることができるようになっており、ICTの技術に驚かされます。

3点目の個別・最適化の学びの推進による特別な支援が必要な子ども達の可能性の拡大に関して言うと、人的な支援には限りがありますが、ITという物的サポートをツールとして操ることによって学習しづらい子どもの主体的学びが開かれると思います。例えば言葉の力が弱い子どもには画像や動画といった視覚情報を教えることで理解しやすくなりますし、読み障害の子どもはデジタル教科書の文字の拡大、読み取り、読み上げ、ハイライトといった機能を活用できます。書くことに障害がある子どもは音声入力や力の要らないタッチペンや指でも入力が可能です。黒板を写すのが苦手な子どもに対し、先生が黒板をタブレットで撮影し、その画面を子どもの机に置いたところ、それまではかどらなかつた子どもが俄然ノートに写し出した様子を見たこともあります。

以上、ICTがICTならではの力を発揮して、子どもの学びの有益なツールとなることを願っています。

以上です。

○市長【高山松太郎】 ありがとうございます。

続いて、渡辺委員、お願いいたします。

○教育委員【渡辺正美】 学校教育分野で、これまで現状として、機器を使って、学校からの情報発信、それから防災、学校行事などの一斉配信なども行われているということや、それから学校での全体集会や研究発表、それから保護者会等でもプロジェクターを利用した活用なども行われています。ここでGIGAスクール構想での1人1台のパソコンが配布されて、導入のための整備も行われて、活用が始まっているということです。授業では、今、説明がありましたように、パソコンの場面を通して、先生、子ども、子ども同士がつながり、各教科の特性や、展開場面に応じた使用が順次工夫されながら始まっているという状況だと思います。また、学校の教室と各家庭との接続に関しても、環境の確認や対応が行われており、今後は活用方法がますます工夫され、利用が進むものというふうに思われます。

次に、課題ですけれども、1つ目はコロナ禍の学校でのICTの活用はますます進むものであると思われれます。しかしながら、学校教育の目的は、子ども達の

人格の完成を目指すものであります。子ども達に育むものは、単に知識や理解だけではないと思います。先生、子ども、子ども同士が授業やその他の教育活動でもできる限り直接的な体験、様々な「ふれあい」を通して、豊かな人間性を育成することにより、生きる力、確かな学力の向上を目指すものであるというふうに思います。各学校の先生方はこのことを念頭に、ICTの活用方法を工夫して、実施していくことが必要だと思います。

2つ目は、課題に関しては、情報モラルに関する指導は、先生方の研修などを通して情報を共有化して、日常的に、具体的に対応していくことが大切だというふうに思います。

3つ目に、情報機器を扱う技能や能力は、子どもの発達段階や様々な要因により、子どもに個人差があります。ICTは、個別場面での実践活動も多くなると思いますので、先生方は学級の実態をよく把握し、子ども達40人の全てを意識して授業等で活用していくことが大切だと思います。

今後に関してですけれども、今後、デジタル教科書についての対応も必要になってくると思います。

4つ目に、ICT教育に関しては、活用方法は、学校の実態に応じて、先生方がよりよく工夫していくことが第一だと思います。また、情報機器がより進化したたり、使用中の機器も劣化します。計画的な機器の更新を計画することも今後必要であると思います。

以上です。

○市長【高山松太郎】 ありがとうございます。

続いて、福田委員、お願いいたします。

○教育委員【福田雅宏】 お願いします。今回初めてなので、GIGAスクール構想について調べてみまして、令和時代のスタートとしての1人1台端末環境で、Society 5.0、仮想空間と現実空間を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会課題の解決を両立するとのことで、従来の鉛筆とノートと並び、PC端末を使用しての教育の推進とのことで、先日、私ごとですが、小学校と中学校に通う我が家の子ども達も1台ずつ端末を持ち帰りまして、インターネット環境の接続テストと、いよいよICT化が始まるのかなという感じはしました。

先日、わがまを言いまして、今井課長と一緒にうちの子どもが通っています成瀬小学校に授業を拝見に伺いまして、6年生の算数と5年生の体育を見学しまして、担任の先生ともお話を伺いました。どちらの授業でも子ども達の使用も慣れているように見え、混乱もなく、実に見事な活用だと感じました。答えに困ったときもタブレットにおいて説明があり、苦手な課題においては過去の問題や学年をまたいでの確認もできるように、周りの目を気にしないで確認が可能であり、集中して授業も行えているように感じました。また、高学年が低学年の児童に使い方を教えているようで、コミュニケーションも取れているということだそうです。また、職員同士の会議や資料の共有、特別教室の予約もタブレットを通して確認できるようで、便利だそうです。ありがとうございます。

GIGAスクール構想の立ち上げ当初は、34か国の先進諸国で構成されているOECDの中で、学校の授業におけるデジタル機器の使用時間が最下位とのデータがあったそうですが、今後、ほかの先進国と肩を並べていけたらよいのではないかと思います。

今までは詰め込み方式的な教育が多かったように感じますが、ICTの活用により、様々な情報を収集できることや発信すること、写真や動画などを用いた視覚的、明確なものにより、今まで以上に身につくのではないのでしょうか。私も小学生時代、VTRを使用しての理科の授業は大好きでした。教育テレビで「体育ノ介」を見たときも、これは分かりやすく、実にいいことだなと感じております。また、様々な理由で登校できない子ども達や、今回のコロナなどで登校不可能なときの有事でも授業の遅れもなく、カリキュラムもスムーズに進行できると思われますし、学習塾のように一人一人に合った、遅れる子がないような工夫もできると伺っております。また、ほか地域や、専門家とリンクできれば素晴らしい教育環境の実現ができるのではないのでしょうか。

しかしながら、現時点ではなかなか進んでないということも聞いております。先日、都内ですけれども、非常勤の教師の方とお話をする機会がありました。その時の話によると、教員によって端末を使用する率が違うとお聞きしております。紙ベース100%の教員の方がまだいるのも事実だそうでございます。また、低学年の利用も難しいそうでございます。これは長い時間で見なければ解決するものだと思います。

神奈川県教育委員会研修会では、アンラーニングという言葉が出てきまして、確かに不必要な古いものを捨てることは大事だと思いますが、自らノートに書くこと、それによって覚えることの重要性も忘れてはいけないと感じております。学校において、先生方や友人と、人と人が触れ合って、学び、体験することも大事であると思います。

もう1点、保護者として心配なこととして、情報モラルに関してでございます。オレオレ詐欺のように、他者に成り済まし、悪いことをする人間がいることは周知の事実です。本市においてはしっかりと対策が取られているとは思いますが、特に気をつけなくてはならないことだと思います。何より人を思いやる心、気持ちを理解する心、人と関わり合う中で培うものがデジタル社会の中では一番重要になってくると考えます。構想が始まったばかりで、まだ教員の方も生徒も保護者も身近なものとなっていないと思います。長いスパンで見守り、修正しながら、子ども達の明るい未来へとつながっていければよいと思います。

最後に、現場の教員の意見としまして、先ほど濱田部長からありましたけれども、タブレットの故障、修理がもう既にあるそうで、今後も使用頻度によりさらに増加する可能性が高いとございました。そのための予算の再考をお願いできれば幸いです。また、保護者から伺いましたが、子どもは目の周りの筋肉の発達が遅いので、タブレット使用後に目の体操などを取り入れたほうがよいのではないかと御意見もいただいております。

以上でございます。

○市長【高山松太郎】 ありがとうございます。

それぞれ皆さん方から御意見をいただきました。今、タブレットの修理が増えてきているという話ですが、どのくらいなのでしょう。

○教育指導課長【今井仁吾】 現時点で十数台というところですが、今のところはまだ学校にも多少余裕がありますので、滞りなく児童生徒は使用できているところがございます。ただ、ここで使用頻度がかなり上がっておりますので、それに伴って、どうしても持ち運びをするものでございますので、落としてしまったりとか、そういった事例はあると聞いております。

○市長【高山松太郎】 分かりました。先ほど申し上げましたように、一度に全部導入をしましたので、更新時期等の課題があるということは承知しております。できる限りの支援をしていくつもりでおります。

今、それぞれ委員さんからお話がありました。私も、いろいろな陳情、要望等を神奈川県や国とオンラインでよく行うんですけども、コロナ禍になって初めて経験させていただきました。ただ、本当に相手にうまく伝わっているのか、表情はどうなんだろう、目はどこに向いているんだろうと、そこが読めなかったので、どうなのかなと思いつつ今年度の要望等をさせていただきました。

先ほど、人間は人間と向き合うことが非常に大切だという重田委員のお話がありました。まさにそういうことだなと私も聞いておりました。ただ、一方ではこういう時代でありますので、世界的にデジタル化が遅れていると言われていて日本でもありますので、今後、本当に急速にいろいろな部分で進歩していくんだろうというふうに思っておりますし、これは学校だけではなくて、社会全体がそういう環境になっていくんだろうというふうに思っております。

ただし、小さい小学生や中学生も人格形成の大事な時期なので、ICTに頼り過ぎてもどうなのかなと思います。先生方はこれからいろいろと検討されていくんだろうなというふうに思っておりますけれども、そうした中で、ぜひ子ども達とコミュニケーションを取っていただいて、35人学級にも取り組んでいますので、それぞれ児童生徒の学力が伸びていくように指導していただければなというふうに思っております。

----- ○ -----

(2) 社会教育分野について

○市長【高山松太郎】 それでは、次に(2)の社会教育分野についてでございます。

学校教育分野同様、社会教育分野におきましてもICTを活用した取組が進んでおります。社会教育の現場では、新型コロナウイルス感染症の拡大防止対策のために、従来のような集客をしておける講演会や文化振興イベント等の開催が困難な状況が続いております。こうしたコロナ禍でも安全で安心して参加できる学びの場を市民の皆様にご提供し、生涯学習活動のサポートができるよう、各担当では、

I C Tを活用した様々な取組を行っております。また、様々な理由により図書館へ来ることが困難な方のために自宅に居ながら図書館のサービスが利用できる取組を開始いたしましたところでございます。

今日は各所属で行ってきた取組等を御紹介させていただきながら、効果的な活用方法や課題について、皆様から御意見をいただきたいと思っております。

それでは、事務局から本市の取組状況等につきまして説明をお願いいたします。

○教育部長【谷亀博久】 それでは、社会教育分野における I C Tの活用について、御説明させていただきます。資料2を御覧ください。

社会教育分野におきましては、新型コロナウイルス感染症の影響により、従来の集客型の講座・イベント等の実施が制限されている中でも、市民に学びの場を提供し、生涯学習の推進を図るための有効な手法として、I C Tを活用したオンライン配信事業等に取り組んでまいりました。

各所属での具体的な取組を紹介させていただきます。項番2の社会教育課といたしましては、(1)として、人権セミナーがございまして、この事業は、例年様々な角度から人権について考える対面でのセミナーを開催してまいりました。しかし、コロナ禍の中で、ア神奈川県の人権教育の概要、イ多文化理解・多文化共生社会を動画配信で行いました。また、ウの「どうしたらわかり合えるの?」、エ「多様な個性を受け止めるために」をZ o o mによるオンライン研修という形で実施しております。

(2)の生涯学習関係事業ですが、アの第32回市民音楽会は、文化会館で無観客で実施した伊勢原音楽家協会のコンサートを録画して配信を行いました。また、第35回伊勢原美術協会展は、伊勢原美術協会の協力を得て展示作品1点1点をホームページ上で閲覧できるようにいたしました。

ウの「紙芝居で触れる伊勢原の民話」は、図書館のボランティア団体であります「おはなしばる〜ん」が作成いたしました紙芝居を動画にしたものでございます。内容は、伊勢原に伝わる民話、「日向薬師の大太鼓」、「おとめ地蔵」、「ワシの子育て」の3作となっております。

続きまして、エは、中央公民館での地震や火災時における避難路や非常ドアの開け方などについて、公民館利用サークルであります「悠遊会」が作成したものでございます。

また、今後はオの「中沢中学校区家庭教育講演会」、来年1月から3月にかけて配信予定でございます。また、カの「スマートフォンの使い方体験セミナー」は、I C Tが進むにつれまして、スマホの取扱いに慣れていない方などを対象に、その操作方法を学ぶことによりまして、生活をより豊かにしていただくため、来年3月に中央公民館ほか5館で開催する予定です。

2ページをお開きください。教育センターでの取組でございますけれども、コロナ禍での不安や戸惑いを抱えている方に対しまして、「こころ・子どもに関するオンライン講演会」を、「ウイズ・アフターコロナ時代のこころの整え方」、「子育てを楽しむために」、「不登校の理解と対応」、「正しく怖がろう「インターネット・ゲーム依存症について」」の4つのテーマで開催しています。

(2) といたしまして、親子で楽しめるイベントや子育てに役立つプログラムを通じて、切れ目のない相談や支援体制などを発信する「子育て応援フェスタ2021」、これは今年オンライン開催となりましたけれども、その中で、先ほど説明させていただきました(1)のエ、「正しく怖がろう「インターネット・ゲーム依存症について」」の配信後の反響が大きかったため、改めて再配信を行っております。

図書館では、先ほど市長から話がありましたとおり、来館が困難な利用者へのサービスの充実ということと「新しい生活様式」に対応した読書活動を推進するため、「いせはら電子図書館」サービスを開始いたしました。これは、パソコンやスマートフォンで閲覧する電子書籍を貸出しするサービスでございます。令和3年10月1日に開設し、10月1か月間の利用状況は336件となっております。

3ページを御覧ください。(2) といたしましては、インターネットによる在庫資料予約サービスを開始しています。このサービスは、予約された資料を図書館スタッフが回収して、貸出カウンターで取り置きすることによりまして、館内での探索時間を短縮することができるものです。

歴史文化担当では、伊勢原の歴史や文化財に関する情報を発信するため、「いせはら文化財サイト」を開設しております。主なメニューは記載のとおりですが、先ほど説明させていただきました「紙芝居で触れる伊勢原の民話」や「甦る宝城坊本堂ー平成の大修理ー」などの動画等の充実も図っております。また、伊勢原の歴史文化を広く外国の方に知っていただきたいと、4つのメニューについての英語版を、今週11月15日に公開し、今後さらに充実させていく予定でございます。

このように様々な取組を行っておりますが、課題といたしましては、インターネット環境のない方や操作方法に不慣れな方など、情報格差の解消や公共施設でのインターネット環境のさらなる充実、また、電子図書館サービスはコンテンツの充実や郷土資料等のデジタル化などへの取組、また、ホームページ等についてもより多くの方に見ていただけるような様々な工夫を行うことが必要であると考えております。

資料の説明は以上でございますが、ここで映像を見ていただきたいと思っております。これから御覧いただく動画は、先ほど御説明させていただきました「紙芝居で触れる伊勢原の民話」の3作品の中の「日向薬師の大太鼓」の舞台となっております。「日向薬師宝城坊」を訪ねた映像です。紙芝居とともに紙芝居の舞台となったゆかりの地の動画を併せて見るによりまして、より一層の楽しみ方が増えるものと考えております。それでは御覧ください。

(動画再生 紙芝居『日向薬師の大太鼓』の里「日向薬師 宝城坊をたずねて」)

○教育部長【谷亀博久】 御覧いただきました映像は、市ホームページの「いせはら文化財サイト」から御覧いただけます。また、動画の中にも出てまいりま

したが、国の重要文化財である宝城坊本堂は、約270年ぶりの保存修理工事を実施しました。この工事は、建物全てを解体し、補修を加えながら復元した大規模な工事でした。この工事の様子を記録した映像も「いせはら文化財サイト」で視聴ができ、平成29年に配信を開始してから現在までの視聴回数は約15万8,000回を超える大変人気の動画となっています。

私からの説明は以上でございます。

○市長【高山松太郎】 それでは、本件につきまして委員の皆さんから御意見を伺いたいと思います。重田委員からお願いいたします。

○教育委員【重田恵美子】 コロナ禍で伊勢原市の社会教育課では集客型講演会からZ o o m配信による人権セミナー、生涯学習などに実施、活用されています。生涯学習としての市民音楽会や伊勢原美術協会展、そして伊勢原の民話の紙芝居などが行われ、来年の家庭教育講演会の子どもの夢の育て方が予定されています。教育センターではこころ・子どもに関するオンライン講演会を、そして子育て応援フェスタではインターネット・ゲーム依存症などについて市民に学びの場の提供としてオンライン動画や講演会などが開催されるようになりました。講演会のみならず、ディスカッションできるセミナーなどは講演者と視聴者の距離をなくして一緒にいろいろな問題点を考えていくということで、とても大切なことだと思っています。

また、図書館は先ほどおっしゃっていましたように、電子図書館の開設、歴史文化担当においては日本遺産関連から伊勢原の民話や、一昨日から英語版の日本遺産プロモーションビデオの公開、インターネットとで配信されるようになっていきます。現代社会ではかねてからICTの活用により世界中の美術館、博物館を訪ねる旅を経験できるようになり、美術館や博物館の所蔵品を画面を通して鑑賞、そして解説を通して一人一人が自分の好きな世界を見つけ、視野を広めることが可能になり、技術や知識を深めるだけでなく、感性も磨かれるようになっていると思います。

ICTの下、日本の歴史的建造物を訪ねる旅をし、その歴史的背景、登場人物を探ることもいろいろな角度から可能になりました。今、時代に取り残されないように伊勢原とほかの地域、海外との文化、芸術においても世界中にもっと伊勢原を認識してもらうためにも、英語版ホームページが公開されるようになったことはとても素晴らしいことだと思っています。これを機に観光地としての発展を目指すことも大切であり、世界との距離を縮めることが大切だとも思っています。実際に旅をしたり、演奏会を聞いたり、芸術鑑賞ができるということは一番大切なことだと思いますが、それができない環境の場合は、また、いろいろな資料を集め、それを基に研究発表などICTの利用の在り方は様々で、可能な限り有効利用できると思います。

最後に、人々が伊勢原を知るために世界中、外部から伊勢原のいろいろなことを検索することとなりますが、その時点で検索しやすいシステムが必要ですので、例えばセミナー、講演会、家庭教育、歴史、神社仏閣、行事、文化、音楽、美術、文芸、映画、演劇、スポーツ、市民文化会館、図書館、子ども科学館、公民館、

コミュニテイセンター、教育センターなど多岐にわたるコンテンツに分類し、そのスケジュールや内容、写真や説明などの記載が簡単に分かる必要性を感じています。学校教育に対し社会教育とありますが、一般の市民やほかの地域から見たときに社会教育とひとくくりにするにはあまりにも広域にわたるので、その中にもっと細分化して一目で分かるように、またそれぞれが連携して検索が簡単になるように開拓していくことがとても必要になってくると思っています。

以上です。

○市長【高山松太郎】 ありがとうございます。

それでは、菅原委員、お願いいたします。

○教育委員【菅原順子】 教育委員会の文化財サイトの英語版の一部が先日公開されました。伊勢原の文化財を世界に向けて発信することによって世界中の受信者とも相互交流ができるのが素晴らしいと思います。例えば、市の登録文化財である大山小学校の青い目の人形についていうと、この人形を贈ってくれたと想定されるアメリカの町の関係者やアメリカの青い目の人形の研究者と相互に情報の交換ができれば、新たな世界規模の交流や情報のアップデートができると思います。

また、青い目の人形の事業を日本の渋沢栄一に持ちかけたのはシドニー・ギューリックというアメリカの宣教師なのですが、彼がこの事業の詳細を記録した、今から90年以上前に出版された本がアメリカの大学の図書館にあり、それがデジタル化され、インターネットアーカイブで保存されていて、誰でも読めるようになっております。このように時間と空間を超えて、多種多様な人々や文化、芸術、イベントにいつでも、どこでも、何度でもアクセスできる。しかも先ほどの日向薬師のように、音声解説や動画、細部のアップなどによって、実際に触れる以上の情報を得ることができるのがICTの醍醐味であると思います。

ただ、このような貴重な情報にたどり着くには多くの時間と労力がかかります。それも楽しみの一つではあるんですが、社会教育課や図書館などが情報センターとして、例えば期間ごとにテーマを決めて、関係するサイトや催しなどを世界中から厳選して紹介してくださると、市民の生活がより豊かなものになると思います。伊勢原市としても、古い資料や書籍をデジタル化し、データベース化して、ネットミュージアムをつくれれば貴重な資料を長く保存する上でも、また広く公開しフィードバックを得るためにも大変有意義なことであると思います。

先月、電子図書館が開設されましたが、来館が困難な方だけでなく、読みが苦手な子どもや視覚障害の方が、電子図書の読み上げ機能を利用することによって、今まで読めなかった本が読めるようになるのであれば素晴らしいと思います。読み上げ機能付きの電子図書をつくるデイジー図書というシステムもあります。先ほどのインターネットアーカイブもデイジー図書も、ボランティアの方々の地道な作業でつくられるものです。ICTコンテンツの充実のためにも、また、御高齢の方など情報入手に困難を抱える方を取り残すことなく、ICTの恩恵を味わっていただくICTリテラシー普及のためにも、地域が協力して、知恵と力を出し合えるといいと思います。

以上です。

○市長【高山松太郎】 ありがとうございます。

続いて、渡辺委員、お願いいたします。

○教育委員【渡辺正美】 社会教育分野に関して、現状は公民館などは施設利用の予約システムはもう県と連動して定着して行っているということや、それから、ホームページ等での事業の予定や活動内容に関する情報発信もかなりしっかり行われているということです。

コロナ禍の状況の中で、先ほどまず説明がありましたように、企画事業であるセミナーや講座、講演会等での情報機器を活用してのテレビ会議や、録画動画配信等が実施されておるといことです。

課題と今後のことですが、コロナの収束後もICTを活用した企画事業をより進めて、昼間は仕事があり、時間が取れず、直接参加できない方もICT活用で学習できるなどの機会、状況が多く生み出せて、これまで課題であった社会教育事業への参加者を増やすことができるチャンスだと思われま。

また一方で、これまでと同様に、様々な企画事業では人や自然との「ふれあい」を大切にしたい事業内容となるような工夫を続けていくことも大切だと思います。

2つ目に、高齢者も多く、情報機器の活用になじみがない人々もおられることを意識して事業展開をする部分も大切だと思います。

3つ目に、現在も児童コミュニティや施設開放等で学校の多目的活用が進んでいます。また、今後も進むことと思われま。このような中で、活動で使用する教室などについても、使用する方々の声をよく聞いての利便性を高められるよう、ICT環境整備を進めていくことも大変重要だといふふうに思われま。

以上です。

○市長【高山松太郎】 ありがとうございます。

続いて、福田委員、お願いします。

○教育委員【福田雅宏】 お願いします。今、時代はまさに情報社会であり、ICTは必要不可欠になっています。子どもから御年配の方と、世代を超えて、SNSやメール、インターネット等、様々なツールを利用し、スマホやパソコンが放せなくなっております。特にスマートフォンは、モバイル社会研究所によると、2021年4月現在、保有率92.8%だそうでございます。ちなみに、2010年は4%だったそうでございます。

さて、先日、伊勢原市のYouTubeチャンネルを初めて拝見しました。すみません。今までチェックしたことがありませんでしたし、あることも知りませんでした。誠にすみません。伊勢原の魅力や周知には実に有効なツールであると思われま。数年前だと記憶しておりますが、宮崎県小林市のYouTubeがテレビで放映され、話題になったことを御存じでしょうか。まるで、フランス語の方言のようだと、視聴回数も290万回を超えたそうでございます。電通さんがつくったプロの制作ではありますが、実に見事で魅力的。一度行ってみようかと思わせるような出来でございました。

コロナ禍では、旅行もバーチャルツアーなどを行い、オンラインツアーの利用

率は、JTBによると、2020年9月時点で11.3%だそうです。伊勢原の50周年記念の動画を拝見しました。歴史や文化、魅力をアピールされ、まとまってよかったと思います。バーチャルツアーなどをきっかけに伊勢原をもっと周知して、そこからアーカイブにリンクしてもらい、伊勢原の歴史、先ほどの宝城坊さんのような歴史や魅力を発信していくことの可能性はあると思います。既存の紙芝居などは非常に有効なチャンネルだと思います。

さて、昨年からのコロナの影響で、公民館や児童館、図書館の利用ができにくくなっており、利用者の減少や各団体の活動自粛と生活行動の変化につながりました。私ごとですが、PTAの役員を務めていたときは家庭教育講演会などに参加させていただき、勉強になったことを覚えております。また、子どもが在籍しておりますガールスカウトでも公民館を利用させていただいております。また、MOAなどで子どもの作品展示など、有効な公民館活用にもつながっており、保護者も公民館は身近な施設ではないでしょうか。また、年齢に関わらず、趣味や講演会等の利用に関しても施設利用は欠かせないものと感じておりますが、コロナや身体的理由、交通機関の関係で、施設利用が難しい方々が、自宅に居ながらにしての活動が可能であれば、より広く、また、敷居も低いものにできるものではないでしょうか。アーカイブを充実して、5年、10年という長いスパンで宣伝周知すればとてもよいものになると個人的には思います。

次に、電子図書の件ですけれども、先日テレビで、お金に触るとコロナに感染する可能性があるという間違った情報が蔓延しているそうです。書籍に関してもそのようなリスクがあり、不特定多数の人が触れたものは特に触りたくないと感じている方がおいでではないでしょうか。間違った情報を修復するのは時間がかかり、手間もかかると思います。そこで、電子図書の利用は増加すると思いますので、よいツールだと思います。私も老眼なので、文字が大きくできると便利ですし、また、借りた書籍を幼稚園や保育園、学校等で画面を利用したの読み聞かせなどもいいんじゃないかなと思います。

以上でございます。ありがとうございます。

○市長【高山松太郎】 ありがとうございます。

それでは、最後に、山口教育長にお願いいたします。

○教育長【山口賢人】 ICTということなんですけれども、自分は子どもの頃に星新一というSF作家が書いたショートショートというものをよく読んだ記憶があります。本当に夢のような、いつになったら実現するのか分からないような、そういう世界が描かれている、そういう小説に心引かれて、胸がわくわくしたなという思いがありますが、今、もう既にビッグデータにAIが繋がっていること、それから、いろいろな情報と物が結びついて、遠隔操作みたいな、IoTというらしいですけれども、そういうものも既に行われている。ショートショートなんかにもあったように、空を飛ぶ車なんていうのもたしかあったように思うんですけれども、そういったものも、つい先日、実用化されるかどうかなんていう実験が行われたという話も聞いていて、私が読んだのは50年ちょっと前だと思うんですけれども、その間に夢のような世界が現実のものとなってきている。

今、S o c i e t y 4 . 0 という時代なんですかね。情報社会というふうに一般的に言われるみたいですけど、もうその次のS o c i e t y 5 . 0 という時代に一步踏み込んでいるような状況ではないかと思います。30年後には人間に代わって知的労働をA I が担うんだというようなお話も耳にしたことがあります。30年後というと、今の小学生、中学生が社会で中心になって働いている時代です。ということは、もう子ども達に、これから情報機器をどう使わせようかなんて言っている、実は余裕はなくて、どんどん学校教育の中で、あるいは日常生活の中で、情報機器を使いながらいかないと、30年後のS o c i e t y 5 . 0 の時代を生きていけなくなってしまうということを、我々は認識しておかなきゃいけないんじゃないのかなというふうに思っているところです。

社会教育に関するいろいろなI C T の活用、こんなことができるんじゃないかとか、こういう課題があるんじゃないかというのは、さきに各委員さんからお話しされたとおりだと思いますので、ちょっと心配な部分でお話というか、自分の感想を述べさせてもらいます。自分が生まれる前からいろいろな情報発信というのが行われていたと思うんですけど、昔は、新聞とか、雑誌とか、そういう紙ベースのものを使った情報発信が主だったと思います。そのうち、それがラジオとかで、音声の情報発信のものになってくるし、次にはテレビが普及してきて、映像でもいろいろな情報が出されるようになってきています。特にテレビの時代になってくると、報道がそうですし、スポーツとか、芸術とか、演芸とか、本当にバラエティーに富んだ情報が発信される時代になってきて、その続きとして、今、さっきから話が出ているI C T を使った、スマホなんかが一番象徴されるんでしょうか。そういうような時代に今移り変わっていきつつあると思います。

多分、テレビの時代までは、情報というのは発信者が主となった情報提供だったように思うんですけど、スマホの時代になってくると、そうではなくて、情報を受けたい者が自分で様々ある、今でいうと、クラウドとかいう目に見えないバーチャルな空間の中にいっぱいあるデータの中から、あるいは情報の中から、自分で必要とする情報を自分で選択して、手に入れる。そういうような受け手側が中心となる情報の受け方に変わってきているのかなというふうに思っているし、これからI C T のいろいろな技術革新が進んでいくと、ますます受け手側にとっては便利な時代になってくるのかなというふうには思っています。

そうすると、今でも少しそういうようなことが感じられるんですけども、自分に興味のないこととか、自分の考えとは違うこと、こういうものはあえて手に入れようとしない限り、もう目には見えませんし、ますますそういうものから遠ざかってしまう。そういうような傾向が強まってくるんじゃないかなというふうには思っているところです。

今回、社会教育分野についてということなんですけれども、社会教育を進めていく立場とすると、もちろん一人一人の多様なニーズに応じた情報発信の仕方とか、そういう方々にとって有益となる学習の場とかの設定というものなども、当然、整備していかなければいけないんだと思います。ただ、社会教育としては、豊かな地域社会をつくっていくためには、様々な世代だとか、様々な考え方を持

つ人々への情報発信、あるいはそういう人に向けた学習の場、教育の場、そういうものをいかに届けていくのかというのも大切な視点なのではないかなというふうには思っています。

我々としては、ちょっとそこら辺は意識して、ビッグデータを分析したりすることとか、あるいはICTのよりよい活用の仕方。より有益な活用の仕方などを考えていって、どうすれば、よりの確に市民のニーズが把握できたり、あるいは不特定多数の方々により有効に情報が発信できるのか、あるいは広報できるのか、そういうことについても研究することが必要なのではないかなというふうには思っています。

そして、多分、伊勢原にとっても、そういうような広報とかをどうしていくのかというのは、先ほども他の委員さんからのお話に出ましたけれども、魅力がいっぱいある市ですから、いっぱいある魅力の発信、あるいはPRのために、もっと有効な、多くの方の心に響くような手立て、そういうものに結びついていくのではないかなというふうに思っているところです。

以上です。

○市長【高山松太郎】 ありがとうございます。

それぞれ委員の皆さんから御意見をいただきました。私の感想としては、一番遅れているのは私だな、そんな感じを受けたところでございます。情報発信は本当に大事だなというふうに思っていますけれども、先日も職員に対して、ぜひ伊勢原の情報発信に力を貸してくれというお願いをしたところであります。

皆さん、御存じのように、千葉県に大山阿夫利神社、大山寺、大山小学校があります。あることは私も聞いていたんですけれども、一度も行ってなかったの、先日、行ってまいりました。ああ、これがそうか。改めて、私どもの大山の偉大さといいますか、それを感じ取ってまいりました。阿夫利神社そのものは、かなり坂道を上がっていくんですけれども、そこのお社はそうでもなかったんですけれども、大山寺は見事なものであります。これもやっぱり良弁僧正が開いたというふうに書かれておりましたし、県の文化財にもなっております。注目すべきは、大山小学校が廃校になって、その後、今活用されているのを見てきたわけがあります。

いずれにしましても、非常に人口減少の厳しさというのを目の当たりにしてきたんですけれど、これらの文化財を今後この地域ではどう守っていくのかなというのは非常に興味深く私も見させていただいたんですけれども、いずれにしましても、これら阿夫利神社というのは、まだまだ関東、あるいは全国かも分かりませんが、相当あるようです。ですから、それらをこれからこういう時代でありますので、連携をしながらネットワークを組んでPRするのも一つかな、そんなふうにも思っているところでもあります。

新型コロナウイルス感染症によりまして、子どもだけではなく大人まで、新しい生活様式が根づいて、それに伴っていろいろなものが急速に変わってまいります。そこで、それらにやはりついていかなければいけないというのが今求められていることではなかろうかなというふうに思います。

生涯学習の現場では、さきに紹介いたしました動画配信等の取組を行うことで、自宅のパソコンやスマートフォンから気軽にイベントを視聴したり、セミナーに参加したりすることができるようになり、安全・安心な学びの場を提供することができております。ただ、一方では、運動不足にということも課題の一つになっているわけでありませう。

今回、日向薬師の宝城坊の動画を御覧いただきましたけれども、伊勢原の民話とコラボレーションさせることで、これまでとは違った視点で見ただけにとともに、市の貴重な観光資源であります文化財に触れていただく新たな機会になったのではないかとこのように思っております。

また、公民館講座をはじめとする生涯学習事業や、子育て、幼児教育に関しまさ家庭教育事業、そして、図書館サービスと、社会教育分野の事業は市民の皆様のご生活に非常に身近なものでございませう。ICTの活用によりまして、安全で便利な取組を進めながら、やはり社会教育の推進におきましても、対面での人と人とのコミュニケーションが重要だと思っておりますので、リモートと対面の2つの手法を臨機応変に使い分けることが大事ではないかなと思っております。今後、市民ニーズを把握いたしまして、皆様に喜んでいただけるような事業運営がございませう、本日、皆様方からいただきました御意見を参考にさせていただきますながら、市長部局と教育委員会で連携をいたし、さらに効果的な活用を進めてまいりたいと思っております。

最後になりまするが、現在、新型コロナウイルスの感染者数が落ち着いているところとございませうが、今後、第6波の襲来も想定されております。市といたしましては引き続き感染拡大防止に向けまして取り組んでまいりませうので、皆様の御理解と御協力をよろしくお願い申し上げます。

それでは、以上をもちまして、本日予定をしておりました協議事項は、皆様の御協力によりまして、全て終了することがございませう。

ここで進行を事務局にお返しをしたいと思います。ありがとうございます。

----- ○ -----

閉会

○教育部長【谷亀博久】 皆様、ありがとうございます。これで、本日予定しておりました日程は全て終了いたしました。

これをもちまして、令和3年度伊勢原市総合教育会議を終了させていただきます。皆様、お疲れさまでした。

----- ○ -----

午後3時30分 閉会